

日本全国みんなで作るサンゴマッププロジェクト



～2013年のサンゴ白化情報を中心に～



【日本全国みんなで作るサンゴマップ実行委員会】

○浪崎 直子(東京大学・海洋教育促進研究センター), 山野 博哉・熊谷 直喜(国立環境研究所), 大堀 健司(エコツアーふくみみ), 翁長 均(ネイチャーワークス), 岸本 多美子(月刊ダイバー), 佐藤 崇範(琉球大学国際沖縄研究所), 鈴木 倫太郎(日本生態系協会), 土川 仁・宮本 育昌(コーラル・ネットワーク), 春川 京子(セブンシーズ宮古島), 平手 康市(沖縄県企画部水産海洋研究センター), 古瀬 浩史(自然教育研究センター), 鋒山 謙一(ルーツ&シューツおきなわ), 町田 佳子(WWFジャパン), 山中 康司(NPO法人日本安全潜水教育協会)

● サンゴマップって？

誰でも参加できるサンゴのモニタリングプログラムです。
サンゴの目撃情報を広く募り、サンゴ礁の現状を把握します。



<http://www.sangomapp.jp/>



参加者はインターネットを通じて簡単にサンゴ目撃情報を投稿出来ます。投稿情報は、リアルタイムで、グーグルマップ上に表示されます。

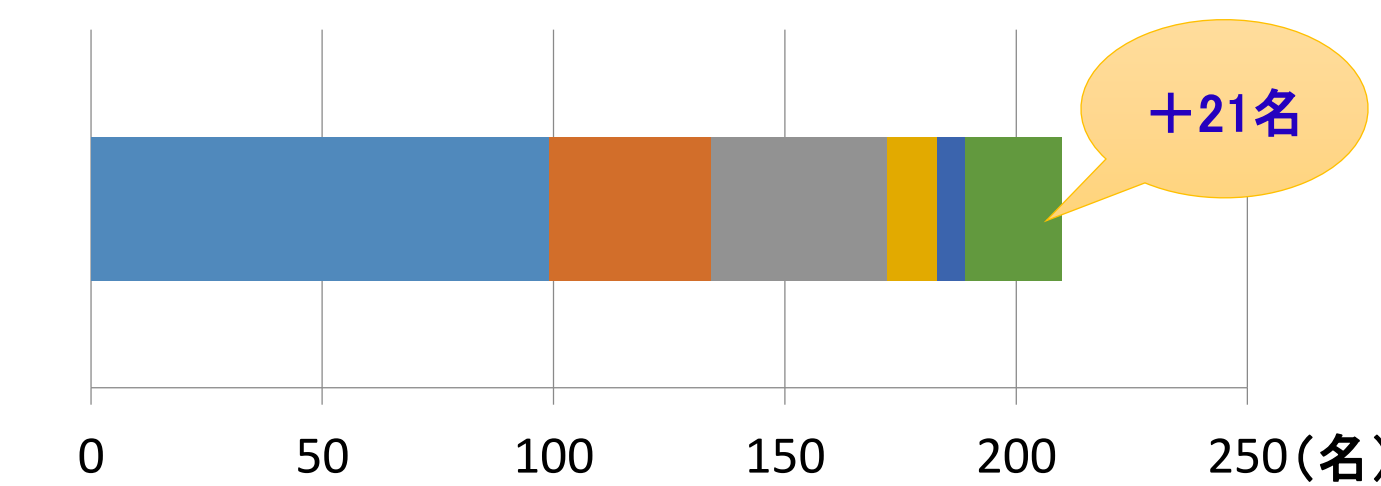
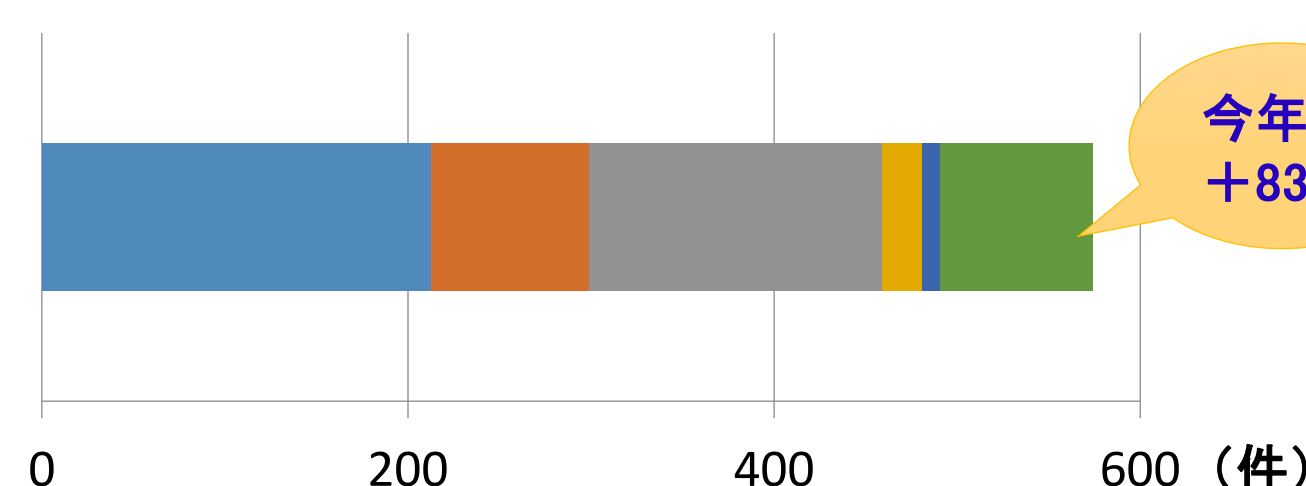
● これまで集まったサンゴの分布・産卵情報

(2008年7月1日～2013年11月20日現在)

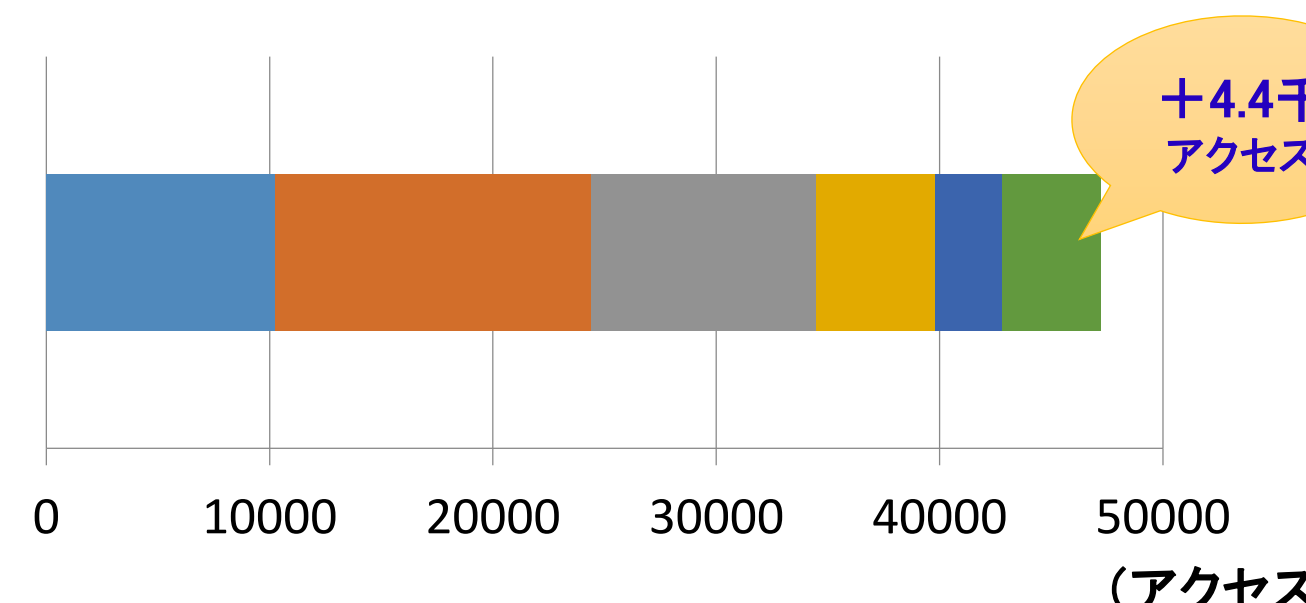
情報提供数: **574件**

白化: 489件、回復: 17件、北上: 3件、産卵6件含む

情報提供者の人数: **210名**



サイトアクセス数: **4万7221 アクセス**



6年目の今年は、沖縄島を中心に全国でサンゴの白化現象が見られ、サンゴマップには2013年8月から11月までの4ヶ月間で83件の白化情報が寄せられました。

結果マップ —2013年の白化情報—

みなさんからいただいた「サンゴの白化情報」を表示しています。

2013年に情報提供いただいた83件の白化情報のうち代表的なもののみ紹介します。全体的に白化が20件、部分的に白化が38件、ほとんど白化していないが9件、白化なしは16件となり、白化の観察場所は沖縄島を中心に高緯度まで広範囲となりました。

●=全体的に白化、●=部分的に白化、●=白化なし、ほとんど白化していない、分らななかった/気がつかなかった

● 沖縄周辺

2013年の投稿

- 富野小学校の小学生さん: 石垣島富野海岸。富野小学校の1～6年生全員で調査。今年度は5月と7月にCW調査を実施。今年度は5月と7月にCW調査を実施。今年度は5月と7月にCW調査を実施。今年度は5月と7月にCW調査を実施。
- ふくみさん: 石垣島ヤマバレー河口。水深の浅いイレー、水温が高く水の循環が悪そうな環境。生きていたサンゴの半分ほどが白化しているように見られた。
- うみむしさん: 宮古島城辺海岸。海岸から15mまでの範囲で多くのサンゴが白化していた。
- うみとそらさん: 宮古島城辺海岸。
- colorcodeさん: 久米島北側海域。
- kiwiさん: 産間味島真真ビーチ沖。
- しかたにMさん: 沖縄島大度海岸。ハマサンゴ類やキクメイシ類の一部が白化しているが、全体にはそれほど白化が進んでいない。ミドリイシ類もやや色の薄いものもあるが、茶色を保っている群體の方が多。
- なかのさん: 沖縄島瀬底島。
- めくさん: 沖縄島国頭村と那覇周辺の水深2～3m以深では、塊状ハマサンゴなど、一部で白化が見られた。それより浅い地点では、全体的に白化。
- おきさん: 奄美大島国直。
- umikkoさん: 沖縄島大浦湾テリピン。部分的な白化が見られたサンゴの属は、ミドリイシ属、ハナヤサイサンゴ属、スリハチサンゴ属、キクメイシ属でした。
- もりさん: 沖縄島許田。

● 高緯度

2013年の投稿

- ジョージさん: 対馬市馬肥島。
- ジョージさん: 対馬市鰐浦沖。
- nagauniさん: 神津島赤崎。全体的に造礁サンゴは、健全な状態であった。ごく一部の群體に食害が確認された。オニヒトデによるものではないが、食害した生物の特定はできなかった。
- ジョージさん: 岩根市黒崎。
- ジョージさん: 五島市布浦。
- しげるさん: 歴久島一澳タンク下。今年は本当に水温が高く、特徴的だったのがその高温期間の長さです。ただこれだけ高温が続いている割には状況はそれほどヒドイ感じはしません。例年並みです。
- Yuuuさん: 和歌山県田辺市月島裏。水深が5mより浅い所に生息するミドリイシ類の多くの群體、一部のキクメイシ類に白化が見られた。
- つっちーさん: 御蔵島元根の西側。エンタクミドリイシなどが少数見られる。白化はみられない。

成果と課題

- ・今年寄せられた74件という情報提供数は、サンゴマップを創設した2008年の100件に次ぐ、2番目に多い数となりました。
 - ⇒サンゴマップは白化という緊急時に市民から広く情報を収集するシステムとして機能させることに成功しました。
 - ・産卵マップへの投稿は今年度は0件
 - ⇒エコツアーや環境教育での活用を検討し、サンゴ礁保全に関わる人を増やすため、サンゴ礁保全のはじめのアクションとしてさらに普及していきたい。
 - ・本大会熊谷ほかの口頭発表では、サンゴマップで収集された2008～2013年の白化情報を用いて、地域による白化の起きやすさを評価した統計モデリングの結果を発表します。
- 情報提供くださったみなさま、ご協力ありがとうございました。